

第6回事業系ごみ専門部会  
議事録（概要）

1 開催日時 平成30年12月19日（水） 10：00～11：05

2 会 場 第3委員会室

3 出席者

（1）委員・・・3名

森島部会長、南委員、須藤特別委員

（2）事務局・・・7名

清田経済環境部長、谷澤経済環境部次長、小川環境課長、  
吉沢課長補佐、濱田主幹、倉橋係長、音道主事

4 傍聴者 なし

5 議 事

（1）少量排出事業所指定袋制度について

（2）生ごみ処理機に関するアンケート調査の結果について

発言者	発言要旨
部会長	「少量排出事業所指定袋制度」に関して、事務局の説明を求める。
事務局	～資料に基づき説明～
部会長	少量排出事業所指定袋制度について委員の意見を求める。
委員	藤沢市の年間の収支は。
事務局	<p>収支は不明だが、藤沢市は家庭系ごみと事業系ごみを同じ車両で収集しているため、その分収集コストは抑えられている。</p> <p>今説明した試算は、事業系ごみのみを別車両で収集した場合の試算である。</p>
委員	<p>年間700万円の赤字が許容できる金額なのか、判断が難しい。</p> <p>なるべく赤字がでないようなやり方にしてもらいたい。</p>
委員	<p>支出の明細が分からないので判断ができない。</p> <p>現在、事業所で家庭用のごみ集積所に出されているものは市の税金でごみ処理がされている。赤字になったとしても、この制度を導入することにより適正なごみ処理手数料が支払われるという考え方もある。</p> <p>支出の明細はいくらか。</p>
事務局	大半が収集運搬費用である。
部会長	収集曜日や指定袋の色を区別することにより、不法投棄の抑止に繋がるのではないかと考える。
事務局	<p>コストダウンを図る必要はあるが、うまく回収する仕組みを構築できれば、適正排出に繋がる。</p> <p>市が行う考え方の他に、民間で収集する考え方もある。</p> <p>民間で収集する場合、市がどのぐらいまで関与すれば良いかという話になる。例えば、市で対象となる事業者を取りまとめ、民間</p>

	<p>の収集運搬業者が収集する方法はどうか。</p>
委員	<p>1,200 事業者の収集を考えると手間だとは感じる。  また、実際の収集は 1,200 事業所より少ないと考える。  全体を考慮すると、判断が難しい。  コストだけで判断すると、家庭系ごみと一緒に収集するのが効率的である。</p>
部会長	<p>一緒に収集してしまうと、事業系ごみの量が分からず、減量効果も分からない。  コスト、減量効果を総合的に判断する必要がある。</p>
事務局	<p>市が収集する考え方と、民間が収集する考え方があるが、次回はもう少し詳細な資料を提示し、この制度が可能かどうかについてご審議いただきたい。</p>
部会長	<p>こちらについては継続審議とさせていただきます。  大和市の事例で参考になる資料があればご提示いただきたい。  続いて、「生ごみ処理機に関するアンケート調査結果」に関して、事務局の説明を求めます。</p>
事務局	<p>～資料に基づき説明～</p>
部会長	<p>アンケート結果や大型生ごみ処理機補助制度について、委員の意見を求めます。  また、委員が収集している飲食店で、家庭用生ごみ処理機を利用し始めた事業所があると思うが、利用状況についてご報告をお願いしたい。</p>
委員	<p>10 月から使い始めて 2 ヶ月が経過した。来客者数の変動もあるため、一概に判断はできないが、前年度と比較するとごみの減量がされている。  手間は気にならない。臭いは多少あるが、営業に支障はない。  ランニングコストも踏まえ、さらなる検証が必要。</p>
部会長	<p>家庭用生ごみ処理機については、制度自体を知らない事業所と、</p>

	<p>知ってはいたが事業所も補助対象であることを知らなかった事業者がいるのではないか。</p>
事務局	<p>アンケート結果から、「家庭用生ごみ処理機補助制度を知らなかった」と答えた約4割の事業所に対する周知は必要。</p> <p>また、補助制度を大型生ごみ処理機にまで拡大するかどうかの話になる。大型生ごみ処理機は高額で、別途、設置工事費やランニングコストがかかる。</p>
委員	<p>実際の収集では生ごみはそれほど多くなく、紙類の混入が多い。生ごみが多く出る事業者は民間で処理していると思われる。</p> <p>海老名市の場合、大型生ごみ処理機の補助は現実的ではない恐れがある。家庭用の生ごみ処理機の方が手軽に利用できる。</p> <p>減量で必要なことは、分別の意識づけにより、焼却量を減らすこと。さらに減量効果が大きいのは、高座清掃施設組合の搬入料金を上げること。</p>
委員	<p>鎌倉市の大型生ごみ処理機補助制度の状況はどうか。</p>
事務局	<p>現在、1事業所が補助を受けていると伺っている。</p> <p>事業所としては費用対効果や減量効果で判断することになるが、このような補助制度が受け皿としてあれば、減量化が進むと考える。鎌倉市は1事業所であるが、投入された分は減量がされている。</p> <p>なお、海老名市でも市役所と市内保育園3園にて大型生ごみ処理機を利用しているが、大きなトラブルの報告は受けていない。</p>
部会長	<p>海老名市の大型生ごみ処理機はいつから導入しているのか。</p>
事務局	<p>平成26年度から導入している。</p>
部会長	<p>アンケートで利用希望があった事業所については、PRしていく必要がある。その他の周知の方法は。</p>
委員	<p>費用対効果が重要。</p> <p>削減も出来て費用対効果もあれば導入するきっかけになる。</p>

事務局	アンケート調査を任意記名式にしておけば、生ごみ処理機の利用希望の回答があった店舗に対する連絡は可能だった。
部会長	単発のアンケートではなく、継続的なアクションは必要。
事務局	<p>本日委員からご説明いただいた、家庭用生ごみ処理機を利用している事業所の利用状況を添えて、再度周知を図る等の地道な取り組みが必要。</p> <p>実際に導入している店舗の生の声は重要。</p>
事務局	現在利用している生ごみ処理機への投入量を調べてもらうのは可能か。
委員	確認する。
事務局	市役所と保育園3園での投入量も次回お示しさせていただく。
委員	実際の（大型）生ごみ処理機のイメージが湧かず、手を出しづらいと思うので、写真等で紹介するのも有効。
部会長	<p>生ごみ処理機の審議についてはここまでとし、継続審議とする。本日の内容を基に、次回必要な資料をお示しいただきたい。</p> <p>次回以降についてだが、課題整理が必要な部分はあるものの、事業系ごみも家庭系ごみと同時期に減量化策が取れるよう、速やかに答申を行う必要がある。次回は答申の作成に向け、これまで審議した内容をまとめていただきたい。</p> <p>併せて、これまで検討してきた減量化策について、どのぐらいの減量効果が見込まれるかを算出いただきたい。</p> <p>それでは、議題については以上とし、本日の審議を終了する。</p>